



只見町の自然や生活文化を活かした教育の支援

只見町は豪雪に育まれた豊かな自然とそこに暮らす人々の生活文化が共存してきました。只見町がユネスコエコパークに登録されたのは、人が自然とともに生きていく姿を学ぶのにふさわしい地域だからなのです。そんな只見町のすべての小中学校はユネスコスクールに加盟し、将来を担う子供たちの教育のために、只見町の自然を活かしたE S D（持続可能な発展のための教育）に力を入れています。

只見町ブナセンターはE S Dを支援することを目的に、令和6年度には只見小学校の先生・生徒とともに、只見町の自然や生活文化を活かした教育プログラムに取り組みました。見慣れた遠くの森の木を描き、山を登ってそれらの樹木を調べ、さらに、調べた樹木が古民家に使われていることなどを学びました。只見町は豊かな自然とそれを拠り所にした人の暮らしを考えるうえで素晴らしいフィールドであるということを確認できた1年でした。

▶只見の自然景観を理解するために四季を通じた山のスケッチ



▶同じ場所を夏、秋、冬と描き、地形による森林の違いも学びました



▶スケッチした山に実際に登り、どのような森林があるかを調べました



▶ブナ二次林では新利用などブナ林と人の関わりを学びました



▶学術調査研究で明らかにできなかった山に生えている樹木でできた古民家を見学（ただみの森キャンプ場）



▶自然と人の暮らし（道具、エネルギー）の関わりをまとめ、公民館祭りで発表



※この広報紙は再生紙を使用しています

※環境にやさしい大豆油インキを使用しています